

オリンピック・パラリンピック競技をリアル観戦しよう!

2020年に区内や区に隣接する新国立競技場で開催されるオリンピック・パラリンピック競技を観戦し、選手の迫力や躍動感をリアルに体験できるイベントが、7月21日、9月8日にスポーツセンターで行われました。今回も東京2020大会を楽しみにするたくさんの人が参加し、トップアスリートらのプレーを間近で楽しみました。

問オリンピック・パラリンピック推進課(☎3463-1849 ☎3463-3528)



宮崎大輔選手による
ジャンプシュートの実演指導も

7/21

ハンドボール

7月21日、日本ハンドボールリーグ大崎電気OSAKI ^{オースル}に所属する宮崎大輔選手、柳雄大選手、岩永生選手、村上凌太選手がゲスト登場したハンドボール競技。デモンストレーションでは、ジャンプシュートなど迫力あるプレーが実演されました。選手との触れ合いを楽しめるコミュニケーションタイムの後は、東京都社会人連盟1部所属の警視庁北の丸クラブと桜門クラブの試合が実施されました。宮崎選手らがプレーを解説し、ハンドボールがより身近に感じられる機会になりました。



競技体験会には
多くの子どもたちが参加



警視庁北の丸クラブ
VS 桜門クラブ

参加者の声

生で見る
ハンドボール選手の
プレーは想像以上に
迫力があり、
驚きました。



参加者全員で記念撮影



男女のpara卓球日本代表選手が
世界レベルのプレーを披露

9/8

para卓球

9月8日のpara卓球には、世界卓球2015蘇州日本代表吉田雅己選手のほか、日本肢体不自由者卓球協会会長の島山講史郎氏、para卓球日本代表である吉田信一選手、岩淵幸洋選手、茶田ゆきみ選手、七野一輝選手、竹内望選手が参加。國學院大學全學応援団・リーダー部による応援も行われ、会場は大きな声援に包まれました。イベント後、吉田信一選手は「東京2020大会では、今日のように大きな声援を一人でも多くの日本代表選手が受けられればうれしいです」と話しました。



選手によるデモンストレーション

ラリーが速くて
びっくりしました。
僕もやってみたい
です。

参加者の声



國學院大學全學応援団の応援

迫力あるプレーは球技の中の格闘技

ここがポイント
迫力あるシュートシーンや、スピーディーな試合展開が魅力のハンドボール。接触プレーも許されており、「球技の中の格闘技」と呼ばれています。



障がいの程度に応じてクラス分け

ここがポイント
基本ルールは卓球と同じ。障がいの程度や運動機能に応じて1から11までクラス分けされており、義手や義足、クラッチ(杖)、車いすなどを使用します。



広尾中学校・渋谷区卓球連盟より
贈呈された応援フラッグ

今後の予定

ウィルチェアーラグビー

▶ 10月20日(土)9:30~17:30(青山学院記念館【大学体育館】)

陸上競技・パラ陸上競技

▶ 11月24日(土)(代々木公園陸上競技場【織田フィールド】)